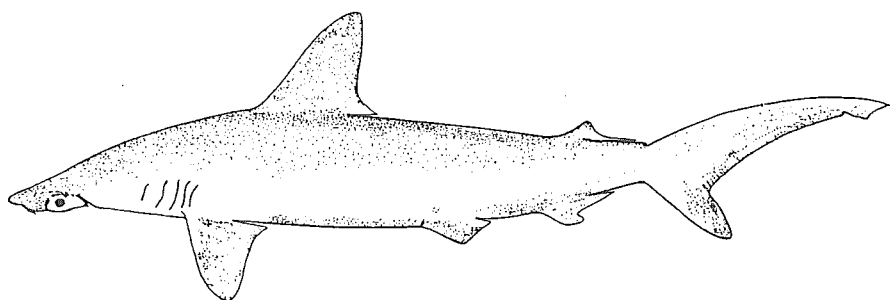


板鰐類研究会報

第25号

Report of Japanese Society for
Elasmobranch Studies

No. 25



Sphyrna lewini

板鰐類研究会 1988年7月 July, 1988
Japanese Society for Elasmobranch Studies

名誉会長 石 山 礼 藏 (東京水産大学名誉教授)
会 長 水 江 一 弘 (長崎大学水産学部名誉教授)
事 務 局 〒113 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学農学部水産学科内

板鰓類研究会

Office JAPANESE SOCIETY for
ELASMOBRANCH STUDIES
Department of Fisheries
Faculty of Agriculture
University of Tokyo
1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku,
Tokyo 113, Japan

目 次

Contents

朝日田 卓・井田 齊	
三陸地方に産する板鰓類・・・・	1
Elasmobranchs of the Sanriku District	
石原 元	
日本産ガンギエイ科エイ類の検索表・・・・	10
A key to the species of the family Rajidae in Japan	
板鰓類に関する日米共同セミナー開催報告・・・・	20
Report of joint seminar on elasmobranchs between Japan and USA	
書評・・・・	27
Book review	
第三回インド・太平洋国際魚類会議の軟骨魚類シンポジウム開催に ついて・・・・	28
Announcement	
編集後記・・・・	28
Editorial note	

三陸地方に産する板鰓類
Elasmobranchs of the Sanriku District, Japan

北里大学 水産学部 朝日田 卓・井田 齊

Takashi Asahida and Hitoshi Ida
(Faculty of Fisheries, Kitasato University)

三陸地方に産する板鰓類については、丸山(1971)が42種を報告している。しかし同氏は、ジンベイザメ・シロシュモクザメ等標本に基づかないもの、あるいはハチワレ・アオザメなどマグロ延縄漁獲物が、三陸地方の市場に水揚げされた種など、三陸の魚類相の範ちゅうと考えがたい種をも含めている。従って、ここでは三陸地方で漁獲され、生体及び標本を実際に確認できた板鰓類23種について報告する(1985 年1 月現在)。

標本は北里大学水産学部環境生態学講座所蔵の14種、及び岩手県水産試験場所蔵の14種を用いた。標本番号(FSKU... 当講座、IFES... 岩手県水試)・全長・採集年月日・場所・漁法・水深など、記録のあるものについてはそれを付記した。また標本が多数あるものについては、その記載を一部に留め、漁獲期についても知り得るかぎり記載した。写真はなるべく新鮮時のものを用いたが、無いものについては標本写真とした。

このうち、三陸地方において普通に漁獲される種類数は、サメ類3種(ホシザメ、ネズミザメ、アブラツノザメ)、エイ類2種(コモンカスベ、ホシエイ)である。この他には、カスミザメ、フジクジラなどのツノザメ類がトロールによって、トラザメが下北半島の定置網で漁獲されている。また、黒潮が卓越した年にはドチザメ、ヨシキリザメ、アカエイ、トビエイなどが、親潮の強いときにはゴマフシビレエイなどが漁獲されている。更に、ウバザメ、イトマキエイなども稀に漁獲される(生体、標本は確認していない)。以下に季節ごとの出現頻度を、主観的に表に記した。

この他、確認された胎児数、卵数などの情報も少ないながら付記した。

以上、連絡会の皆様の材料採集などの情報となれば幸いである。尚、調査するにあたり、御協力をいただいた岩手県水産試験場の北川氏に感謝の意を表する。

(1988年4月15日受付)

各種の出現頻度表

種	季節				
		春	夏	秋	冬
1. ナヌカザメ					VR
2. ニホンヘラザメ			VR		
3. ホシザメ		C	C	C	C
4. ドチザメ			R		R
5. ヨシキリザメ		R	R		
6. ネズミザメ		C			C
7. カスミザメ		R	R		
8. カラスザメ		VR			
9. フジクジラ		VR			
10. ビロウドザメ		VR			
11. アブラツノザメ		C			C
12. ノコギリザメ		VR			
13. ヤマトシビレエイ			VR		
14. ゴマフシビレエイ		R			R
15. コモンカスベ (クロカスベ)		VC		C	C
16. ガンギエイ属の1種					VR
17. マツバラエイ			R		
18. ソコガンギエイ属の1種			VR		
19. ソコガンギエイ属の1種			VR		
20. オナガカスベ		R	R		
21. アカエイ				R	R
22. ホシエイ			C	C	C
23. トビエイ			R		R
トラザメ (下北半島)			VC	VC	
ウバザメ		VR			
イトマキエイ			VR		

* C=Common, VC=Very common, R=Rare, VR=Very rare.

三陸産板鰓類

Order Lamniformes

Family Scyliorhinidae

1. Cephaloscyllium umbratile (Tanaka) ナヌカザメ
IFES-543 (569mm) '79-2, 釜石沖, トロール
2. Apristurus japonicus Nakaya ニホンヘラザメ
IFES-579 (570mm)(544mm) '73-7-30, 大槌沖、水深665m, トロール

Family Triakidae

3. Mustelus manazo Bleeker ホシザメ
FSKU-84027 (516mm) '84-6-12, 三陸町, 水深30-40m, 定置網, 他標本多数
沿岸定置網による主な漁獲期: 4月-10月
4. Triakis scyllia Muller et Henle ドチザメ
FSKU-75002 (725mm) '75-12-16, 三陸町, 水深60m, 定置網
FSKU-80001 (1129mm) '80-6-14, 三陸町, 水深30-40m, 定置網

Family Carcharhinidae

5. Prionace glauca (Linnaeus) ヨシキリザメ
FSKU-75003 (1226mm) '75-5-4, 三陸沖
FSKU-75004 (1225mm) '75-6-18, 三陸町, 水深30-40m, 定置網, 胎仔22尾 (片側の子宮より)

Family Lamnidae

6. Lamna ditropis Hubbs et Follet ネズミザメ
FSKU-83011 (460mm:foetus) '83-2-3, 大船渡。
沿岸域における主な漁獲期: 2月-6月

Order Squaliformes

Family Etmopteridae

7. Centroscyllium ritteri Jordan et Fowler カスミザメ
FSKU-82020 (414mm) '82-6-11, 宮古沖, トロール
FSKU-83001 (450mm) '83-3-31, 三陸沖, トロール
8. Etmopterus frontimaculatus Pietschmann カラスザメ
IFES-35 (320mm)
9. Etmopterus lucifer Jordan et Snyder フジクジラ
IFES-545 (321mm) '68, 山田町, 定置網
10. Scymnodon squamulosus (Gunther) ビロウドザメ
IFES-312 (665mm) 岩手県, 定置網

Family Squalidae

11. Squalus acanthias Linnaeus アブラツノザメ
FSKU-76001 (1020mm) '76-11-25, 三陸町, 水深30-40m, 定置網
胎仔8尾 (雄4尾、雌4尾)
FSKU-80014 (437mm) '80-4-24, 三陸沖, トロール。 他
主な漁獲期 (沿岸、沖合い): 周年

Order Pristiophoriniformes

Family Pristiophoridae

12. Pristiophorus japonicus Gunther ノコギリザメ
IFES-631 (1141mm) '81-6-1, 大崎沖, 水深100m, 底刺し網
FSKU-82027 (1210mm) '82-3-13, 三陸沖, 底刺し網

Order Torpediniformes

Family Torpedinidae

13. Torpedo tokionis (Tanaka) ヤマトシビレエイ

IFES-332 (523mm) 岩手県, 定置網

14. Torpedo californica Ayres ゴマフシビレエイ

FSKU-81501 (1270mm) '81-11-19, 三陸町, 水深60m, 定置網

FSKU-83501 (1275mm) '83-5-20, 三陸町, 水深60m, 定置網. 他

Order Rajiformes

Family Rajidae

15. Raja kenojei Muller et Henle コモンカスベ (クロカスベ)

FSKU-84501 (466mm) '84-6-15, 三陸町, 水深30-40m, 定置網, 他標本多数

沿岸定置網による主な漁獲期: 4月-12月,

三陸産のものでは、一回に10個から20個の卵を産む。

16. Raja sp. ガンギエイ属の一種

FSKU-76501 (523mm) '76-11-25, 宮古沖, トロール

17. Bathyraja matsubarae (Ishiyama) マツバラエイ

IFES- (494mm)(554mm)(628mm) '78-7-22, 7-24, 宮古沖, 水深730m-753m,
トロール

18. Bathyraja sp. ソコガンギエイ属の一種

IFES-185 (198mm) '52, トロール

19. Bathyraja sp. ソコガンギエイ属の一種

IFES- (407mm)

20. Rhinoraja longicauda Ishiyama オナガカスベ

FSKU-82536 (171mm) '82-4-6, 釜石沖, トロール

FSKU-84507 (185mm) '84-6-4, 宮古沖, トロール

Order Myliobatiformes

Family Dasyatidae

21. Dasyatis akajei (Muller et Henle) アカエイ

FSKU-75502 (410mm) '75-12-16, 三陸町, 水深60m, 定置網

FSKU-80502 (418mm) '80-12-11, 三陸町, 水深30-40m, 定置網

22. Dasyatis matsubarae Miyosi ホシエイ

FSKU-84504 (690mm) '84-12-6, 三陸町, 水深30-40m, 定置網, 他標本多数

沿岸定置網による主な漁獲期: 6月-12月

Family Myliobatidae

23. Myliobatis tobieji Bleeker トビエイ

IFES-293 (465mm) '68-7-5, 船越湾, 定置網

FSKU-75501 (445mm) '75-12-16, 三陸町, 水深60m, 定置網

FSKU-76502 (450mm) '76-11-22, 三陸町, 水深30-40m, 定置網

FSKU-82529 (526mm) '82-12-20, 三陸町, 水深60m, 定置網

Explanation of plates

Plate 1

1. Cephaloscyllium umbratile (Tanaka).....IFES-543
2. Apristurus japonicus Nakaya.....IFES-579
3. Mustelus manazo Bleeker.....FSKU-84027
4. Triakis scyllia Muller et Henle.....FSKU-75002
- 5-a. Prionace glauca (Linnaeus).....FSKU-75003
- 5-b. Prionace glauca (Linnaeus).....FSKU-75006(foetus)
6. Lamna ditropis Hubbs et Follet.....FSKU-83011(foetus)

Plate 2

- 7-a. Centroscyllium ritteri Jordan et Fowler...FSKU-83001
- 7-b. Centroscyllium ritteri Jordan et Fowler...FSKU-83012(foetus)
9. Etmopterus lucifer Jordan et Snyder.....IFES-545
10. Scymnodon squamulosus (Gunther).....IFES-312
- 11-a. Squalus acanthias Linnaeus.....FSKU-76001
- 11-b. Squalus acanthias Linnaeus.....FSKU-76002(foetus)
12. Pristiophorus japonicus Gunther.....FSKU-82027

Plate 3

13. Torpedo tokionis (Tanaka).....IFES-332
14. Torpedo californica Ayres.....FSKU-81501
15. Raja kenojei Muller et Henle.....FSKU-84501
16. Raja sp.FSKU-76501
17. Bathyraja matsubarae (Ishiyama).....IFES-
18. Bathyraja sp.IFES-185

Plate 4

19. Bathyraja sp.IFES-
- 20-a. Rhinoraja longicauda Ishiyama.....FSKU-82536
- 20-b. Rhinoraja longicauda Ishiyama.....FSKU-84507
21. Dasyatis akajei (Muller et Henle).....FSKU-75502
22. Dasyatis Matsubarae Miyosi.....FSKU-82519
23. Myliobatis tobiiei Bleeker.....FSKU-75501

Plate 1

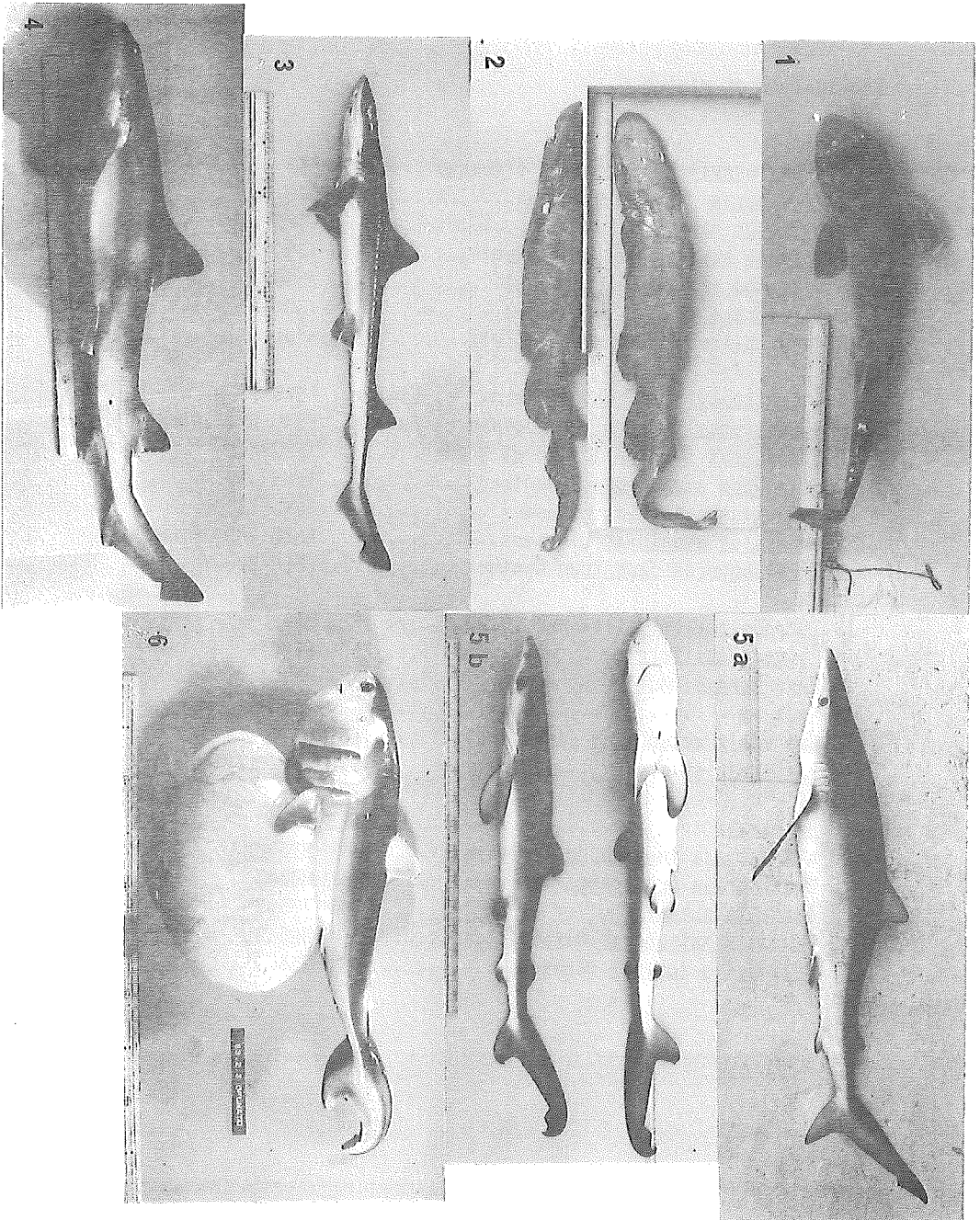


Plate 2

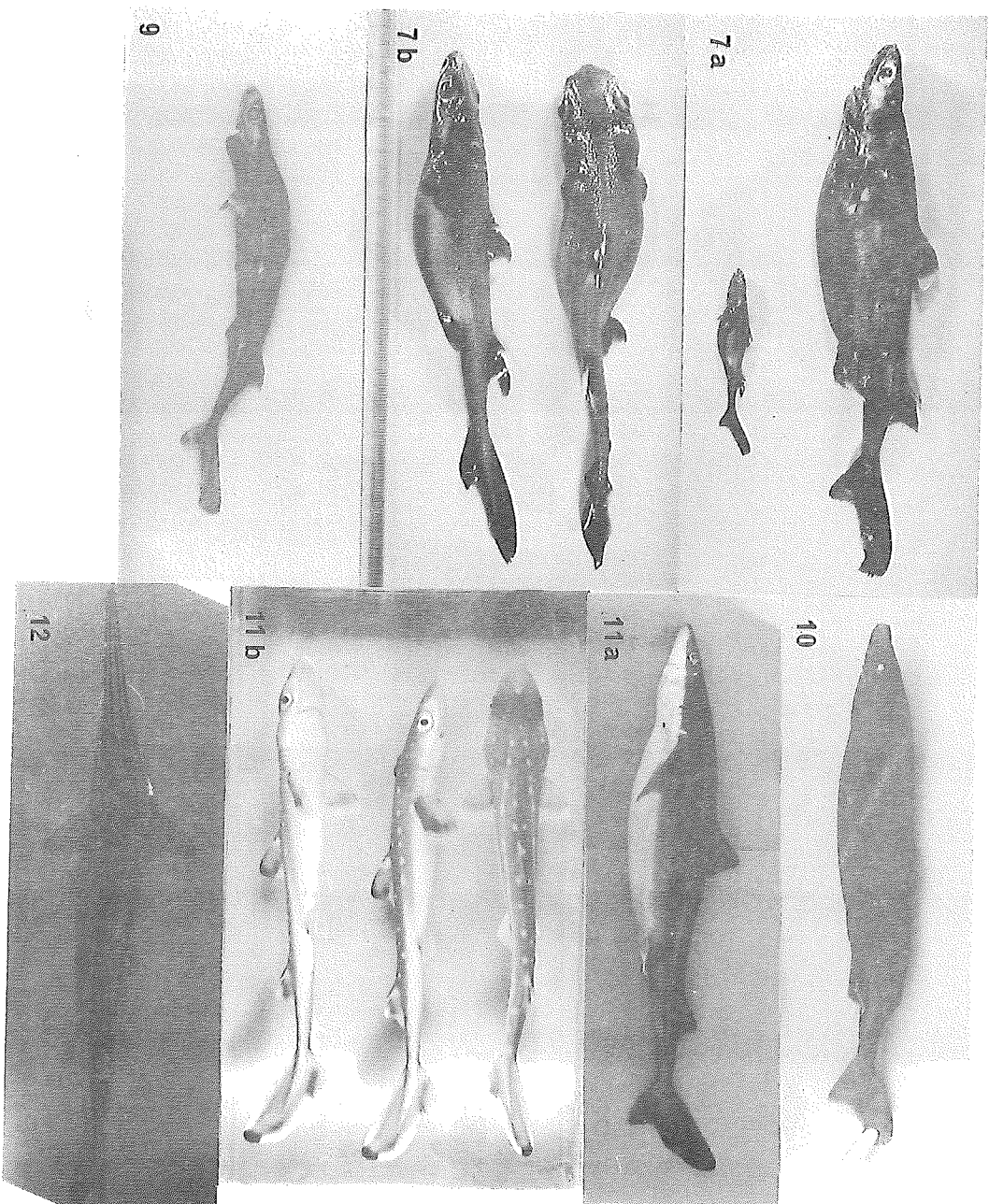


Plate 3

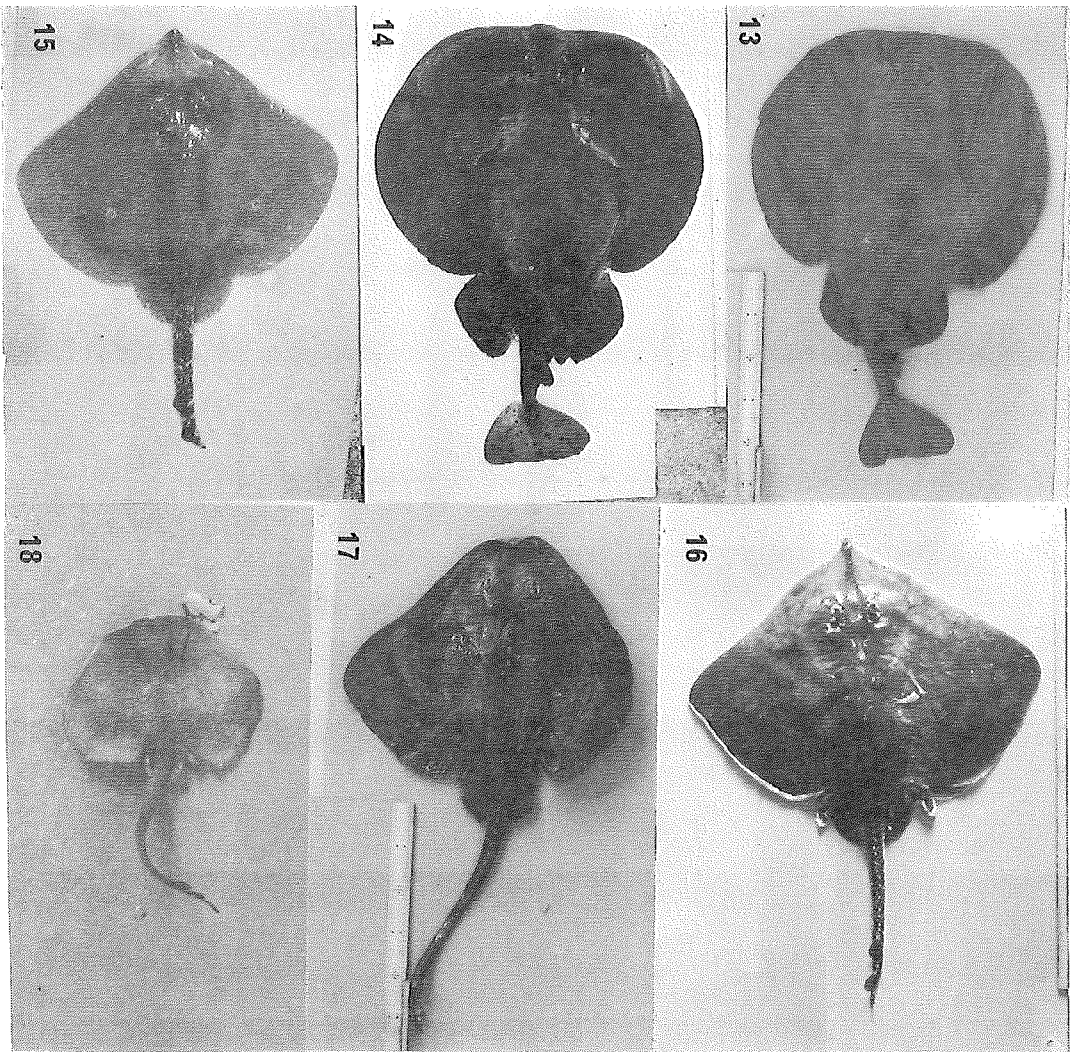
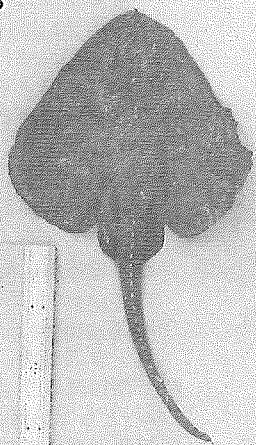
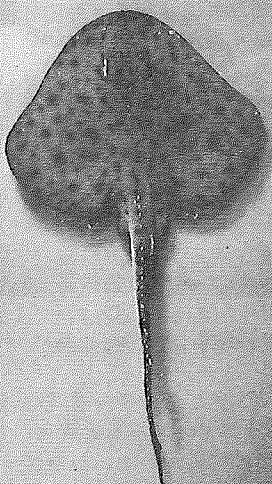


Plate 4

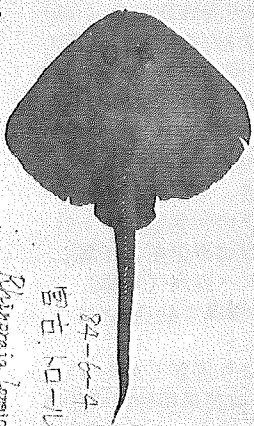
19



20 a

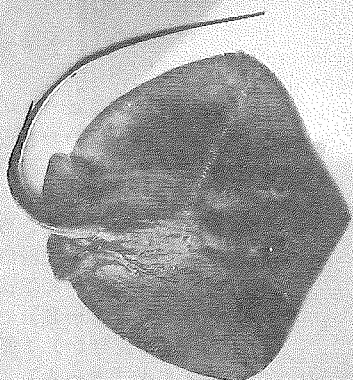


20 b

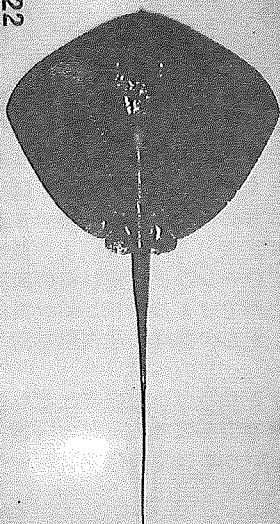


24-6-2
雪古 10-11
Rhinoptera longicauda
+ L. 11-11-11

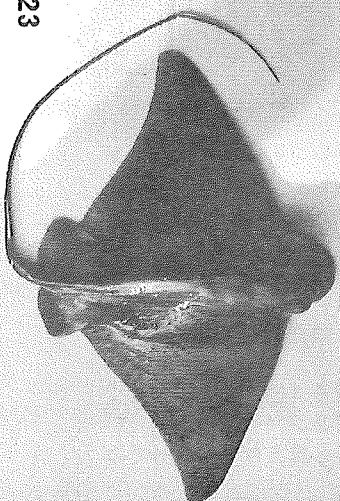
21



22



23



日本産ガンギエイ科エイ類の検索表

A key to the species of the family Rajidae in Japan

東京大学 農学部

石原 元

Faculty of Agriculture, University of Tokyo Hajime Ishihara

筆者は北太平洋産のガンギエイ科エイ類の分類研究を進める中でソコガンギエイ属 *Bathyraja* とガンギエイ属 *Raja* について英文のkeyを作成した (Ishihara and Ishiyama, 1985; Ishihara, 1987)。しかしそのkeyの中に日本産の他の属に属する種を含める事が出来なかった。そこで、今回日本産の全ての種を含む日本語のkeyを作成する事にした。参考にした文献は：Ishiyama, 1958; 1967; Hulley, 1973; Ishiyama and Ishihara, 1977; Dolganov, 1983; 1985; Nakaya, 1983; Ishihara, 1984; 1987; Ishihara and Ishiyama, 1985; 1986である。外部形態を重視したため属または亜属のkeyは省き、全て種の単位で検索ができるように配慮した。keyに表れない上位グループの和名称は以下の通りである。*Anacanthobatis* ホコカスベ属; *Bathyraja* ソコガンギエイ属; *Notoraja* トビツカエイ属; *Raja* (*Amblyraja*) ミツボシカスベ亜属 (新称); *R. (Dipturus)* テングエイ亜属; *R. (Okamejei)* オカメエイ亜属; *Rhinoraja* クジカスベ属。

個体変異や老幼の変異の全てをカバーするkeyは複雑になり過ぎてかえってkeyとしての価値を損なうおそれがあると考え、このkeyでは簡単明瞭に成魚の検索ができる事を第一の目標に置いた。したがってこのkeyによって査定可能な個体は成魚の90%以下と考えられる。幼魚や査定不可能な成魚については筆者まで御一報いただければ幸いに存じます。

Keyに用いた用語の説明 (五十音順)

疣状 (いぼじょう) のウロコ：肥大棘とケシの実状のウロコの中間の大きさで肉眼でハッキリ見えるがその先端は尖ってはいない。

腋部 (えきぶ)：胸鰭最後方の内側で腹鰭と接する部分 (図2, A-b)。

尾鰭 (おびれ)：2基の背鰭後方にあり背鰭より低い (図2, A-d)。

感覚孔 (かんかくこう)：ローレンチニ氏びんの開孔部で腹面で様々のパターンを作る。生鮮時は白色でホルマリン固定後は黒色となる。

眼隔幅 (がんかくはば)：左右の眼窩の最内側を測る。頭蓋骨の眼窩部の幅 (図1-3)

眼径 (がんけい)：眼球をそれをつつむ表皮とともに測る (図2, A-3)。

Keel (キール)：尾鰭の腹側にある皮質の隆起 (図2, C-n)。

ケシの実状のウロコ：細かいウロコで肉眼ではハッキリと見えないが触ってみると分かる。

肩胛部肥大棘（けんこうぶひだいきょく）：肩帯の両側に左右1－3対並ぶ肥大棘（図2, A-a）。

項部肥大棘（こうぶひだいきょく）：肩帯より前方の正中線に並ぶ肥大棘（図2, A-h）。

正中線上の肥大棘：ガンギエイ科の大半の種は頭部を除く体盤と尾の正中線上に肥大棘を持つ（図2, A-f）。

背鰭（せびれ）：尾の後方に2基ある（図2, A-c）。

背鰭後方長：第二背鰭基底後端から尾の末端までを測る（図2, C-7）。

体盤（たいばん）：エイ類の左右の胸鰭が愈合してできる円形または四角形の体の広い中心部。

頭長（とうちょう）：吻端から頭蓋骨の中央後端（噴水孔と肩帯の間で指で押すとへこむところ）までを測る（図1-2；図2, A-1）。

腹鰭前葉（はらびれぜんよう）：ガンギエイ科の腹鰭は前後の部分に分かれる。この内、前の部分が前葉である（図2, B-1）。

腹鰭後葉（こうよう）：同、後の部分（図2, B-m）。

皮褶（ひしゅう）：尾の側方にある皮質の隆起（図2, A-e）。

尾前長（びぜんちょう）：肛門の後端から吻端までを測る（図2, B-5）。

肥大棘（ひだいきょく）：ハッキリと肉眼で見える大形のウロコで、基底は楕円形、先端は鈎状に尖る。正中線上や肩胛骨上に分布し、その存否が分類の決め手となる事が多い。

尾長（びちょう）：肛門の後端から尾の末端までを測る（図2, B-6）。

腹腔部（ふくこうぶ）：肩帯とmetapterygiumに囲まれ内臓が詰まっている部分（図2, B-i）。

噴水孔径（ふんすいこうけい）：噴水孔の後内側から前外側までを斜めに計る（図2, A-4）。

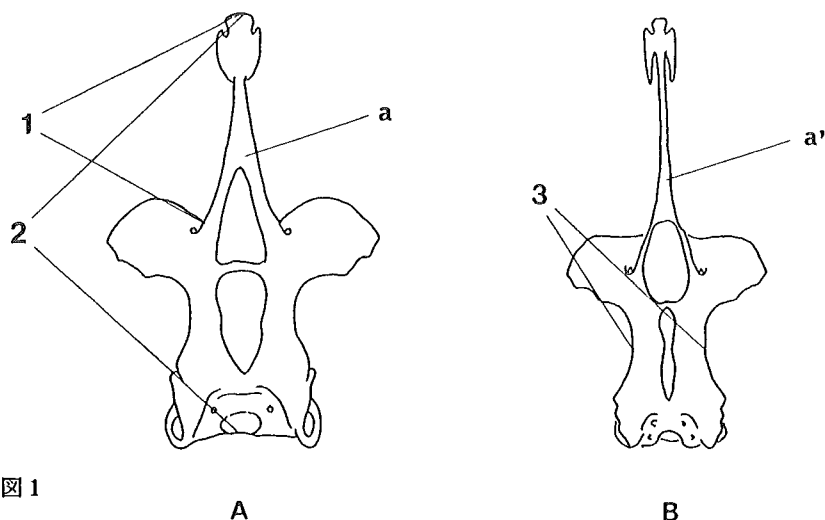
吻長（ふんちょう）：眼前長と同じで眼球を包む表皮の最先端から吻端までを測る（図2, A-2）。

吻軟骨（ふんなんこつ）：ガンギエイ科では頭蓋骨の基部から吻端に向かって軟骨が突出する（図1, a ; a'）。ガンギエイ属ではこれが強く、堅く、へら状で（図1, A）、その他の属ではこれが弱く、軟らかく、棒状である（図1, B）。長さの測り方は図1-1のようにする。

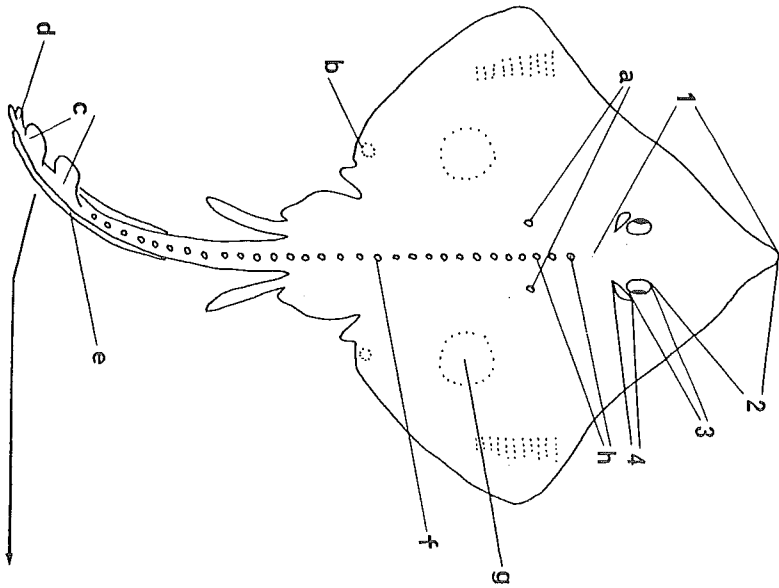
胸鰭（むなびれ）：エイ類の胸鰭は左右が愈合して体盤を形成する。胸鰭中央というのは左右の胸鰭のそれぞれの中央である（図1, A-g）。

Metapterygium（メタプテリジウム）：胸鰭を支える3個の基底の軟骨の内最後方のもの（図2, B-j）。

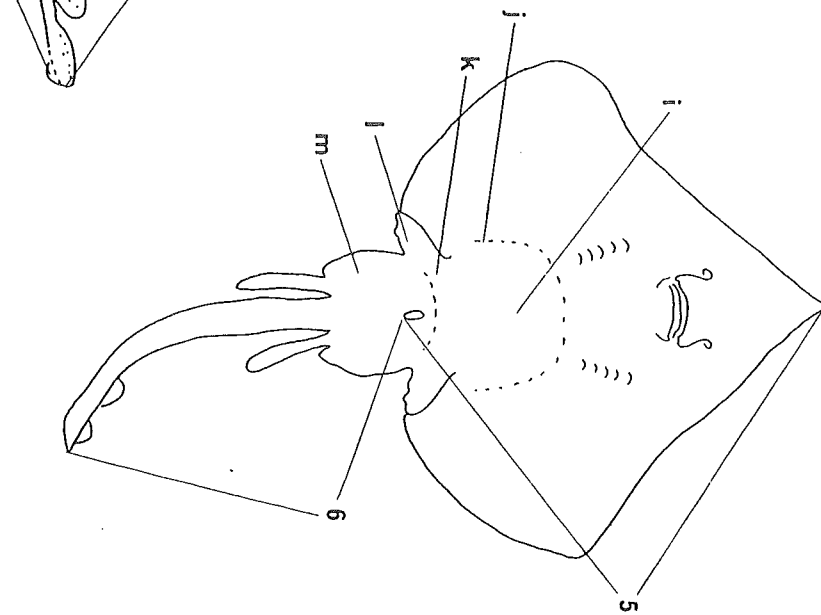
腰帯（ようたい）：腹鰭を支える基底の軟骨（図2, B-k）。



A



B



日本産ガンギエイ科エイ類の検索表

- 1A. 吻軟骨は軟らかいので、吻を容易に折り曲げることができる．．．． 2
- 1B. 吻軟骨は硬く、吻を折り曲げることとはできない．．．．． 23
- 2A. 尾はムチ状で背鰭を欠く。腹鰭前葉と後葉は明瞭に二分し、前葉はヒトの脚のようである。吻端に繊維状の突起がある．．．．． 3
- 2B. 尾は太く、2基の背鰭がある。腹鰭前葉と後葉は基部で癒合している。吻端に突起はない．．．．． 4
- 3A. 体盤背、腹面は濃茶色。尾長は尾前長とほぼ等しい．．．．．
 ．．．．．イトヒキエイ Anacanthobatis borneensis Chan
 [ボルネオから東シナ海まで]
- 3B. 体盤背、腹面は紫黒色。尾長は尾前長よりはるかに長い．．．．．
 ．．．．．クロイトヒキエイ（新称） Anacanthobatis melanosoma
 (Chan) [南シナ海から東シナ海]
- 4A. ウロコはあるが肥大棘は全く分布しない．．．．．
 ．．．．．トビツカエイ Notoraja tobitukai (Hiyama)
 [駿河湾から東シナ海まで]
- 4B. ウロコ以外に肥大棘も分布する．．．．． 5
- 5A. 肩胛骨両側に1－2対の肥大棘がある．．．．． 6
- 5B. 肩胛骨に肥大棘はない．．．．． 10
- 6A. 体盤背面は一樣に疣状のウロコに被われる．．．．．
 ．．．．．クジカスベ Rhinoraja kujiensis (Tanaka)
 [千島列島から東シナ海まで]
- 6B. 体盤背面のウロコはケシの実状か、疣状でもそれは体盤前縁部と眼の内側に限られる．．．．． 7
- 7A. 体盤前縁部と眼の内側に疣状のウロコが分布するが、他の部分は比較的滑らかである．．．．． 8
- 7B. 体盤のウロコはケシの実状で細かく、体盤のほぼ全域に一樣に分布する．．．．． 9

- 8A. 正中線の肥大棘は軀幹部から第一背鰭まで連続して並ぶ．．．．．
 ．．．．． ツノカスベ *Bathyraja simoterus* (Ishiyama)
 [北海道東岸]
- 8B. 正中線の肥大棘は軀幹部で途切れる．．．．．
 ．．．．． ドブカスベ *Bathyraja smirnovi* (Soldatov and
 Pavlenko) [ベーリング海西部からオホーツク海、日本海
 中部まで]
- 9A. 吻は長く、吻長は頭長の75%以上。体盤腹面の前方部にウロコが分布
 する。正中線の肥大棘は軀幹部から第一背鰭まで連続して並ぶ．．．
 ．．．．． アリュースンカスベ (改称) *Bathyraja aleutica*
 (Gilbert) [アラスカ湾から銚子沖まで]
- 9B. 吻は中庸で、吻長は頭長の75%以下。体盤腹面のウロコは吻端にのみ
 分布する。正中線の肥大棘は軀幹部で途切れる．．．．．
 ．．．．． ソコガンギエイ *Bathyraja bergi* Dolganov
 [オホーツク海から日本海ほぼ全域、青森県太平洋岸]
- 10A. 体盤腹面はほぼ全域が暗色．．．．． 11
- 10B. 体盤腹面はほぼ全域が白色．．．．． 17
- 11A. 体盤背、腹面は赤色を帯びる。腹面全域もウロコに被われる．．．
 ．．．．． チヒロカスベ *Bathyraja abyssicola* (Gilbert)
 [カリフォルニア半島から銚子沖まで]
- 11B. 体盤背、腹面は紫黒色。腹面のウロコは吻端にのみ分布する．．．
 ．．．．． 12
- 12A. 眼隔域は狭く、眼隔幅は頭長の20%以下．．．．． 13
- 12B. 眼隔域は広く、眼隔幅は頭長の20%以上．．．．． 15
- 13A. 項部肥大棘が常に存在する。眼の内側は白色で他の紫黒色の部分と対照
 をなす．． スベスベカスベ *Bathyraja minispinosa* Ishiyama and
 Ishihara [アリュースン列島からオホーツク海まで]
- 13B. 項部肥大棘はあっても1本。眼の内側は他の部分と同色．．． 14
- 14A. 体盤腹面に斑点はない．．．．．
 ．．．．． チャレンジャーカスベ *Bathyraja isotrachys* (Günther)
 [銚子沖から東シナ海まで]

- 14B. 体盤腹面には白色の小斑点がある．．．．．
 ．．．．． フェドロフカスベ (新称) Bathyrtaja fedorovi
 Dolganov [オホーツク海からいわき沖まで]
- 15A. 正中線の肥大棘は軀幹部から第一背鰭まで連続して並ぶ．．．．．
 ．．．．． コマンドルカスベ Bathyrtaja lindbergi Ishiyama and
 Ishihara [アリューシャン列島からオホーツク海まで]
- 15B. 正中線の肥大棘は軀幹部で途切れる．．．．． 16
- 16A. 眼は小さく、眼径は噴水孔径よりも小さい．．．．．
 ．．．．． ツムラカスベ Bathyrtaja caeluronigricans Ishiyama and
 Ishihara [北海道南岸から銚子沖まで]
- 16B. 眼は大きく、眼径と噴水孔径はほぼ等しい．．．．．
 ．．．．． マツバラエイ Bathyrtaja matsubarai (Ishiyama)
 [襟裳岬沖]
 ．．．．． ノトロカスベ Bathyrtaja notoroensis Ishiyama and
 Ishihara [オホーツク海南部]
- 17A. 体盤背面は一樣に疣状のウロコに被われる．．．．．
 ．．．．． オナガカスベ Rhinoraja longicauda Ishiyama
 [北海道南部から銚子沖まで]
- 17B. 体盤背面のウロコはケシの実状で小さい．．．．． 18
- 18A. 尾長は尾前長よりはるかに長い。体盤背面には白色の小斑点がほぼ左右
 対称に並ぶ．．．．．
 ．．．．． オダエイ Rhinoraja odai Ishiyama
 [銚子沖から伊豆諸島]
- 18B. 尾長は尾前長よりわずかに長い程度。体盤背面に白色斑点はない．．．
 ．．．．． 19
- 19A. 腹鰭前葉は著しく長く、その後端は後葉後端近くに達する．．．．．
 ．．．．． リボンカスベ Bathyrtaja diplotaenia (Ishiyama)
 [北海道南部から銚子沖まで]
- 19B. 腹鰭前葉は短く、その後端は後葉後端に遠く達しない．．．．． 20
- 20A. 眼は小さく、眼径は吻長の7分の1以下．．．．．
 ．．．．． ホソメカスベ (新称) Bathyrtaja andriashevi Dolganov
 [鹿島灘沖]
- 20B. 眼は中庸で、眼径は吻長の6分の1以上．．．．． 21

- 2 1 A. 体盤背面には暗色の虫喰い模様がある.
. キタノカスベ *Bathyraja violacea* (Suvorov)
【ベーリング海西部からオホーツク海まで】
- 2 1 B. 体盤背面には模様はない. 2 2
- 2 2 A. 尾の皮褶は尾の後部3分の1に発達する.
. ザラカスベ *Bathyraja trachouros* (Ishiyama)
【北海道南岸から三陸沖】
- 2 2 B. 尾の皮褶は尾の付け根付近から始まる.
. チノフスキーカスベ *Bathyraja tzinovskii* Dolganov
【三陸沖深海2,500m】
- 2 3 A. 肩胛部両側に3本の肥大棘があり、それらは三角形をなす。眼の内側に
左右対称に並ぶ3本の肥大棘がある.
. ミツボシカスベ(新称) *Raja (Amblyraja) badia* Garman
【南米コロンビア沖から三陸沖まで】
- 2 3 B. 肩胛部に肥大棘はない。眼の内側には肥大棘がないか、ある場合には4
本以上ある. 2 4
- 2 4 A. 吻は長く、吻軟骨の付け根から吻端までの長さはたいてい頭長の60%
以上。全長は普通55cm以上。尾の肥大棘は雄で1列、雌で3ないし5
列。腹面のウロコは吻端以外にも分布することが多い。腹面の体色は一
般に暗色. 2 5
- 2 4 B. 吻は中庸で、吻軟骨の長さは頭長の60%以下。全長は成魚でも55
cm以下。尾の肥大棘は雄で3列、雌で5列。腹面のウロコは吻端にのみ
分布する。腹面の体色は一般に白色. 2 9
- 2 5 A. 尾鰭は低く、その高さは皮褶の最大幅に等しい。尾鰭下方の腹面は平坦
. メガネカスベ *Raja (Dipturus) pulchra* Liu
【北海道周辺から日本海を経て東シナ海まで】
- 2 5 B. 尾鰭はやや高く、その高さは皮褶の最大幅より高い。尾鰭下方の腹面
にはkeelが発達する. 2 6
- 2 6 A. 体色は背、腹面とも一様に紫黒色、または灰黒色。両背鰭はたいてい接
近する。腹鰭前葉は長く、後葉との間は深く切れ込む。頭部以外の体盤
背面と腹面全域もウロコに被われる.
. ゾウカスベ *R. (D.) gigas* Ishiyama
【銚子沖からフィリッピン東岸まで】

- 26B. 体色は背面が暗茶色で腹面はやや明るい。両背鰭は広く離れる。腹鰭前葉は短く、後葉との間の切れ込みは浅い。吻部背面と腹面のごく一部にのみウロコがある。 27
- 27A. 体盤背面には大小の明色斑紋が多数あり、胸鰭中央の1対はとくに大きい。鰓孔の後方の皮膚はウロコに被われない。
 ガンギエイ R. (D.) *kwangtungensis* Zhu
 [青森県以南の日本海、太平洋と東シナ海]
- 27B. 体盤背面の斑紋はあっても不明瞭。鰓孔の後方の皮膚はウロコに被われる。 28
- 28A. 吻は著しく長く、先端は尖り、棒状。頭長は眼隔幅の6.5倍以上。尾は後方に向かってじょじょに細くなる。尾の皮褶は狭く、不明瞭。背鰭後方長はやや長く、第二背鰭基底長の80%以上。
 テングカスベ R. (D.) *tengu* Jordan and Fowler
 [北海道以南からフィリッピンまでの太平洋、日本海、東シナ海]
- 28B. 吻は中庸で、先端は鈍く、三角形。頭長は眼隔幅の6.5倍以下。尾の中央は太い。尾の皮褶は広く、明瞭。背鰭後方長は短く、第二背鰭基底長の80%以下。
 キツネカスベ R. (D.) *macrocauda* Ishiyama
 [千葉県から宮崎県までの太平洋沿岸]
- 29A. 腹面の感覚孔はやや大きく、腹腔部にも分布する。 30
- 29B. 腹面の感覚孔はやや細かく、腹腔部には分布しない。 31
- 30A. 吻は尖り、頭長は眼隔幅の5.5-6.0倍。腹面の感覚孔は腰帯の後方まで分布し、肛門の両側に及ぶ。体盤背面には黒色の小斑点が密に分布し、側方では連なって虫喰い模様を形成する。体盤背面中央に黒色点に囲まれた1対の白色斑紋があり、その後方にも2-3対の小さい同色の斑紋がある。斑紋の内側の黒色点はこの部分から浮き上がって見える。全長35-43cm.
 モヨウカスベ R. (D.) *okamejei* *acutispina* Ishiyama
 [ボルネオ沖から東シナ海を経て日本海中部まで]
- 30B. 吻は鈍く、頭長は眼隔幅の4.0-4.5倍。腹面の感覚孔は腰帯とその後方には分布しない。体盤背面の黒色斑点はやや大きく、疎らに分布し、側方では連なって虫喰い模様を形成する。体盤背面中央に白色の斑紋はなく、黒色点が凝集して1対のリングを形成するが老成魚では不明瞭となる。全長45-50cm.
 ツマリカスベ R. (D.) *schmidtii* Ishiyama
 [神奈川県から宮崎県までの沿岸]

- 3 1 A. 腹面の感覚孔の最後方の列はほぼ等間隔に並び大きなW字型をなすが、metapterygiumの中央で凝集して小V字型をなすことはない。背鰭後方長は普通第二背鰭基底長の1.5倍以上。 3 2
- 3 1 B. 腹面の感覚孔の最後方の列はmetapterygiumの中央で凝集して小V字型をなす。背鰭後方長は普通第二背鰭基底長の1.5倍以下。 3 3
- 3 2 A. 体盤背面の小黒色点は不均一に分布し、そこかしこで、凝集してバラの花模様をなす。胸鰭腋部には眼径大の暗色リングがあり、時には胸鰭中央にも同様のリングが存在する。体盤背面に明色斑点はない。両背鰭間の距離は普通第一背鰭基底長よりも短い。
. イサゴガンギエイ *R. (Q.) boesemani* Ishihara
[ジャワ島南岸から南シナ海を経て東シナ海まで]
- 3 2 B. 体盤背面の小黒色点は均一に分布し、模様を作ることはない。胸鰭中央にも腋部にも暗色リングはない。体盤背面には多数の黄色斑点が分布する。両背鰭間の距離は普通第一背鰭基底長よりも長い。
. キテンカスベ *R. (Q.) hollandi* Jordan and Richardson
[ナンシャー諸島以北の南シナ海]
- 3 3 A. 吻はやや鈍く、頭長は眼隔幅の3.6-4.9倍。眼径は眼隔幅と等しいかまたは小さい。項部肥大棘は2-16本。尾は縦扁する。雌の成魚では体盤背面の正中線上と後縁部がウロコに被われることがある。幼魚の胸鰭中央にある1対の黒色リングは成魚では明色の斑紋に変わる。この斑紋の後方にやや大きい1対の白色斑紋があり、ホルマリン固定後は黒色となる。体盤一面に黒色の小斑点が分布することがあり（銚子から北海道まで）、これらが連なって虫喰い模様をなすことが多い。上顎の歯列は43以上。全長35-52cm.
. コモンカスベ *R. (Q.) kenojei* Muller and Henle
[日本列島沿岸、東シナ海]
- 3 3 B. 吻は尖り、頭長は眼隔幅の5.3-6.4倍。眼径は眼隔幅と等しいかまたは大きい。項部肥大棘は雄で1-2本、雌で1ないし3本あり、雌の3本の棘は三角形に並ぶ。尾は細く、その断面は円い。雌雄共に背面のウロコは吻端と体盤前縁にのみ分布する。胸鰭中央に斑紋はない。胸鰭中央の後方に1対のやや小さい白色斑点があり、ホルマリン固定後は黒色となる。体盤背面には黄色小斑点が分布する。上顎の歯列は43以下。全長32-37cm.
. メダマカスベ *R. (Q.) meerdervoortii* Bleeker
[東シナ海、玄海灘及び静岡県沖までの太平洋沿岸]

引用文献

- Dolganov, V. 1983. Guide to the diagnostic characters of the cartilagenous fishes from the Far East Sea of the U.S.S.R. and the neighboring waters. TINRO, Vladivostok, 92pp. (In Russian).
- Dolganov, V. 1985. New species of the family Rajidae from the northwestern Pacific Ocean. Vapros. Ikhtiol., 25(3):415-425. (In Russian with English summary).
- Hulley, P.A. 1973. Interrelationships within the Anacanthobatidae (Chondrichthyes, Rajoidea), with a description of the lectotype of Anacanthobatis marmoratus von Bonde & Swart, 1923. Ann. South African Mus., 62(4): 131-158.
- Ishihara, H. 1984. Second record of the rare skate Anacanthobatis borneensis from the East China Sea. Japan. Jour. Ichthyol., 30(4):448-451.
- Ishihara, H. 1987. Revision of the western north Pacific species of the genus Raja. Japan. Jour. Ichthyol., 34(3): 241-285.
- Ishihara, H. and R. Ishiyama. 1985. Two new North Pacific skates (Rajidae) and a revised key to Bathyraja in the area. Japan. Jour. Ichthyol., 32(2): 143-179.
- Ishihara, H. and R. Ishiyama. 1986. Systematics and distribution of the skates of the North Pacific (Chondrichthyes, Rajoidei). Pages 269-280 in T. Uyeno, R. Arai, T. Taniuchi and K. Matsuura, eds. Indo-Pacific fish biology. Ichthyological Society of Japan, Tokyo, 998pp.
- Ishiyama, R. 1958. Studies on the rajid fishes (Rajidae) found in the waters around Japan. Jour. Shimonoseki Coll. Fisher., 7(2/3): 193-394, pls. 1-3.
- Ishiyama, R. 1967. Fauna Japonica. Rajidae (Pisces). Biogeogr. Soc. Japan, Tokyo, vi+84pp, 32pls.
- Ishiyama, R. and H. Ishihara. 1977. Five new species of skates in the genus Bathyraja from the western north Pacific with reference to their interspecific relationships. Japan. Jour. Ichthyol., 24(2): 71-90.
- Nakaya, K. 1983. Rajidae. Pages 52-60, 167-171, 220-227, 310-313 in K. Amaoka, K. Nakaya, H. Araya and T. Yasui, eds. Fishes from the northeastern sea of Japan and the Okhotsk Sea off Hokkaido. Japan Fisher. Resour. Conserv. Assoc.

(1988年 6月24日受付)

板鰐類に関する日米共同セミナー開催報告

Report of joint seminar on elasmobranchs between Japan and USA

1987年12月10日から14日までの4日間にわたり、ハワイのホノルルにあるハワイ大学東西センター(East-west Center)で、「資源生物としての板鰐類：系統分類、生態及び生理に関する最近の研究成果」(日本側代表 小栗幹郎名古屋大学農学部教授) "Elasmobranchs as Living Resources: Recent Advances in Systematics, Physiology, and Ecology" (アメリカ側代表 S.H. Gruberマイアミ大学教授) というテーマのもとに、日米共同セミナーが開催された。このセミナーは、日米科学協力事業の一環として、日本側は日本学術振興会(JSPS)から、アメリカ側は全米科学財団(NSF)から、それぞれ補助を受けて実施されたものである。参加者数は、日本側10名、アメリカ側は他の国からの参加者を含めると39名であった。4日間にわたり、合計44編の講演が行われるという盛大なセミナーとなった。期間中、ワイキキ水族館、シーライフパークで歓迎会が開かれたばかりではなく、夜毎ビャーパーティが催されて参加者間の交流を深めた。ポリネシア文化センターへのツアーにも加わり、夜には華麗なショーを楽しむというおまけもついた。日本側の参加者数がアメリカ側のそれの4分の1という少なさも手伝って、終始米国側のペースで事が運ばれたという感否めない。多くの日本人参加者にとっては外国でのセミナー参加は初めてとあって、緊張の毎日であった。本号にセミナーの英文プログラムをそのまま掲載するが、講演内容の概略を知りたい方は、下記の日本人参加者にお問い合わせ願いたい。

小栗幹郎	名古屋大学農学部
谷内 透	東京大学農学部
田中 彰	東海大学海洋学部
大竹二雄	東京大学海洋研究所
手島和之	水産庁遠洋研究所
内田詮三	沖縄海洋博記念水族館
西田清徳	北海道大学水産学部
原 政子	東京大学海洋研究所
白井 滋	日本エヌ・ユー・エス(株) (現北海道大学水産学部)
石原 元	(現東京大学農学部)

なお、本セミナーでの講演内容は、来年早々に「Elasmobranchs as Living Resources」という題名で、National Oceanic and Atmospheric Administration (NOAA), National Marine Fisheries Service(NMFS)のTechnical Reportに掲載される予定である。価格は10-15ドルであるが、25ドルほどでハードカバー版も出版の予定である。発売された際には、会員諸子に廉価で頒布できるよう努力したい(谷内 透：東京大学農学部)。

SCHEDULE OF EVENTS

[Note: Underlined author is presenting the paper]

Wednesday, 9 December, 1987

- 1300 - 1700 Registration - East-West Center
1700 - SOCIAL SPONSORED BY THE JAPANESE GROUP FOR
ELASMOBRANCH STUDIES

Thursday, 10 December, 1987

- 0800 - 0815 G.M. Cailliet and M. Oguri
Introductory Remarks and Welcome
SESSION I: LIFE HISTORIES
Moderator: Jack Casey
0815 - 0845 Gruber, S.H.
Life History Strategies of Elasmobranch
Fishes: A Review of the Theory
0845 - 0915 Casey, J.G.
A Review of Shark Tagging Studies
0915 - 0945 Teshima, K. and T.K. Wilderbuer
Distribution and Abundance of Skates in
the Eastern Bering Sea
0945 - 1015 Tanaka, S.
Age Characters of Chondrichthyan Fishes
1015 - 1030 BREAK

Moderator: Kazuyuki Teshima

- 1030 - 1100 Cailliet, G.M.
Elasmobranch Age Determination and
Verification: An Updated Review
1100 - 1130 Caira, J.N.
Metazoan Parasites as Biological
Indicators of Elasmobranch Fishes
1130 - 1200 Grimes, D.J.
Bacteria as Agents of Shark Disease
and Shark Meat Spoilage
1200 - 1330 LUNCH

CONTRIBUTED PAPERS I

Moderator: Eugenie Clark

- 1330 - 1350 Yudin, K.G.
Age, Growth and Aspects of the Reproduc-
tive Biology of the Gray Smoothhound,
Mustelus californicus and the Brown
Smoothhound, M. henlei from Central
Californica

- 1350 - 1410 Cailliet, G.M., K.G. Yudin, S. Tanaka, and T. Taniuchi
Growth Characteristics of Two Populations of Mustelus manazo from Japan and two species of Mustelus from California, Based Upon Cross-readings of Vertebral Bands
- 1410 - 1430 Tanaka, S., G.M. Cailliet, and K.G. Yudin
Differences in Growth of the Blue Shark, Prionace glauca: Technique or Population?
- 1430 - 1450 Wisner, M.G. and L.R. Taylor
Captive Growth Rates of Blacktip Reef Sharks, Carcharhinus melanopterus
- 1450 - 1520 BREAK
- 1520 - 1540 Branstetter, S.
Early Life History Strategies of Carcharhinoid and Lamnoid Sharks in the Gulf of Mexico: A Review
- 1540 - 1600 Cairra, J.N.
Site Specificity of 5 Congeneric Tapeworm Species Within the Spiral Valve of the Nurse Shark
- 1600 - 1620 Youngren-Grimes, B.
Ecology of Anaerobic Bacteria in Shark Tissue
- 1620 - 1700 DISCUSSION
- 1700 - FREE EVENING

Friday, 11 December, 1987

SESSION II: PHYSIOLOGY

Moderator: Harold L. "Wes" Pratt

- 0800 - 0830 Oguri, M.
On Some Physiological Characteristics of Elasmobranchs
- 0830 - 0900 Gruber, S.H., B.M. Wetherbee, and E. Cortes
Consumption and Digestive Processing of Food in the Lemon Shark, Negaprion brevirostris
- 0900 - 0930 Murru, F.L.
The Care and Maintenance of Elasmobranchs in Controlled Environments
- 0930 - 1000 Uchida, S.
Reproduction of Elasmobranchs in Captivity
- 1000 - 1030 BREAK

Moderator: Mikiro Oguri

- 1030 - 1100 Otake, T.
Reproductive Modes of Sharks

- 1100 - 1130 Pratt, H.L. Jr. and J.G. Casey
The Reproductive Limitations of Shark Fisheries
- 1130 - 1200 Nelson, D.R.
Telemetry Studies of Sharks: A Review,
With Applications in Resource Management

1200-1300 LUNCH

CONTRIBUTED PAPERS II

Moderator: Tsuguo Otake

- 1330 - 1350 Hara, M. and S. Tanaka
Electron Microscopic Study on Spermatogenesis of Chondrichthyan Fishes
- 1350 - 1410 Castro, J.I. and J.P. Wourms
Insemination by Spermozeugma in the Fine-tooth Shark, Carcharhinus isodon
- 1410 - 1430 Castro, J.I.
- 1430 - 1450 Pratt, H.L. Jr.
Reproduction in the Male White Shark (Carcharodon carcharias)
- 1450 - 1510 Rasmussen, L.E. and S.H. Gruber
Serum Steroid Hormone Levels in Carcharhinid Sharks
- 1510 - 1540 BREAK
- 1540 - 1600 Clark, E. and E. Kristof
Deep Sea Elasmobranchs Observed from Submersibles off Bermuda and Grand Cayman
- 1600 - 1620 Naylor, G.
An Approach to the Phylogeny of Sharks of the Genus Carcharhinus
- 1620 - 1640 Zorzi, G.D. and M.E. Anderson
Records of the Deep-sea Skates, Raja (Amblyraja) badia Garman, 1899 and Bathyraja abyssicola (Gilbert, 1896), in the Eastern North Pacific
- 1640 - 1700 DISCUSSION (Informal presentation by G. Burgess on the International Shark Attack File)
- 1730 BUS DEPARTS FOR WAIKIKI AQUARIUM
- 1800 - SOCIAL: WAIKIKI AQUARIUM

Saturday, 12 December, 1987

SESSION III: SYSTEMATICS AND FISHERIES

Moderator: Toru Taniuchi

- 0800 - 0830 Compagno, L.J.V.
Exploitation and Conservation of Sharks

- 0830 - 0900 Taniuchi, T.
Role of Elasmobranchs in Japanese Fisheries
- 0900 - 0930 McEachren, J.D.
Zoogeography of Skates, and Comments on Relative Abundance and Fisheries Potential (Chondrichthyes, Rajoidei)
- 0930 - 1000 Ishihara, J.
Skates and Rays as Fisheries Resources in Japan
- 1000 - 1030 BREAK

Moderator: Leonard J.V. Compagno

- 1030 - 1100 Anderson, E.D.
Fishery Models as Applied to Elasmobranch Fisheries
- 1100 - 1130 Hoff, T.B. and J.A. Musick
Data Needs for Shark Fishery Management in the Western North Atlantic
- 1130 - 1200 Lund, R.
Observations on the Relationships of the Chimaeroformes
- 1200 - 1330 LUNCH

CONTRIBUTED PAPERS III

Moderator: Emory D. Anderson

- 1330 - 1350 Anderson, E.D.
Estimates of Large Shark Catches in the Western Atlantic and Gulf of Mexico, 1960-1961
- 1350 - 1410 Musick, J.A. and J.A. Colvocoresses
Seasonal Recruitment of Subtropical Sharks in Chesapeake Bight, U.S.A.
- 1410 - 1430 Bonfil, R., D. de Anda, and R. Mena
Shark Fisheries in Mexico: the Case of Yucatan as an Example
- 1430 BUS DEPARTS FOR POLYNESIAN CULTURAL CENTER
- 1700 - BANQUET: POLYNESIAN CULTURAL CENTER

Sunday, 13 December, 1987

CONTRIBUTED PAPERS III (cont'd.)

- 0830 - 0850 McEachren, J.D.
Phylogenetic Interrelationships of Skates: A Working Hypothesis
- 0850 - 0920 Nishida, K. and K. Nakaya
Taxonomy of the genus Dasyatis from the North Pacific

0920 - 0950 Shirai, S. and K. Nakaya
Systematics of the Squaloid Genus
Centroscyllium from the Indo-Pacific
0950 - 1010 Compagno, L.J.V.
Relationships of the Megamouth Shark
1010 - 1030 BREAK

WORKSHOP SESSIONS

1030 - 1200 GENERAL WORKSHOP: ELASMOBRANCHS AS LIVING
RESOURCES

Moderators: Toru Taniuchi
Gregor M. Cailliet

TOPICS: SYNOPSIS OF WORKSHOP PAPERS
RESEARCH NEEDS
FUTURE COLLABORATIVE STUDIES
PLANS FOR PUBLISHING PROCEEDINGS
CONCLUSIONS

1200 - 1330 LUNCH

1330 - 1600 WORKSHOP ON FISHERIES MANAGEMENT

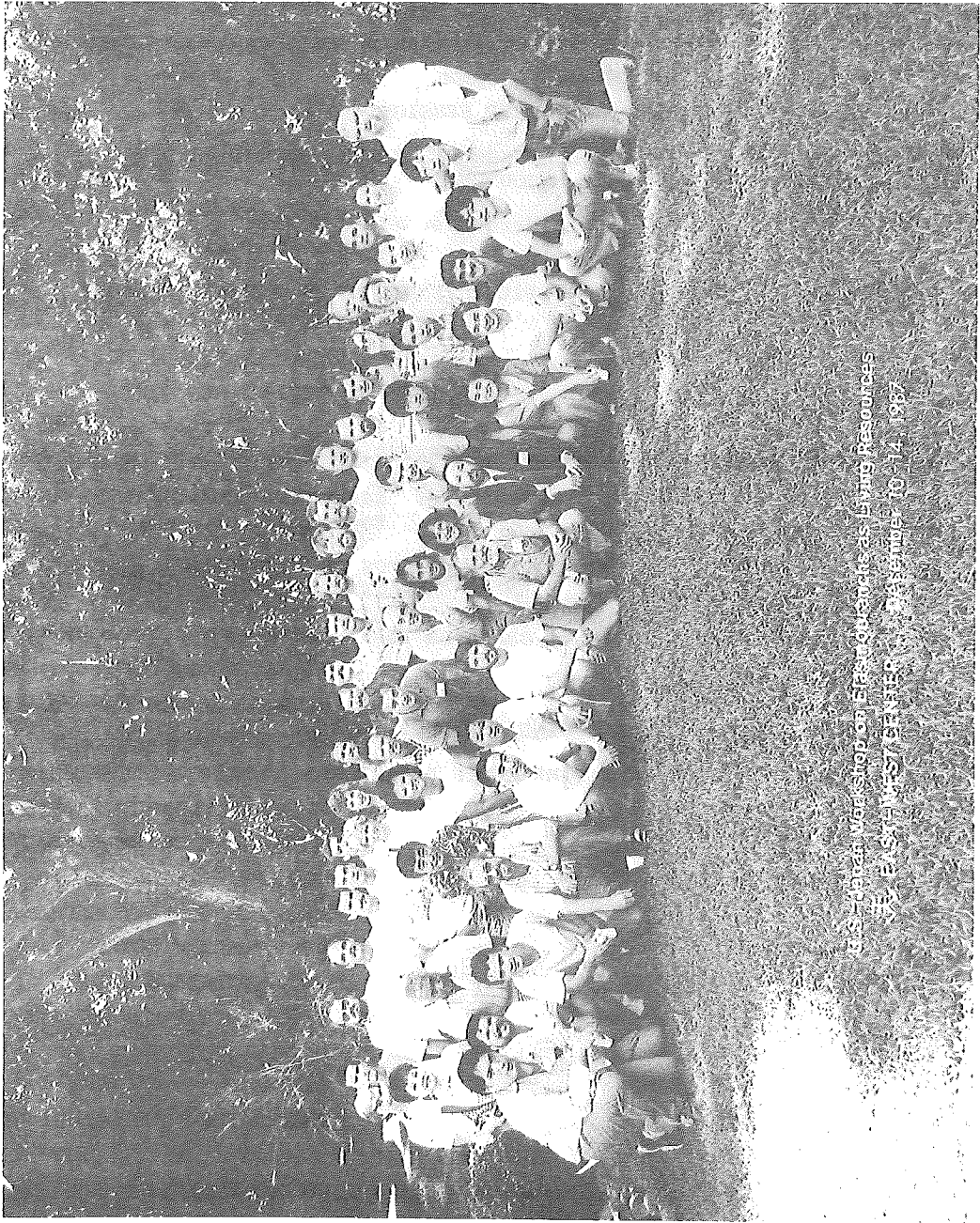
Moderators: Kazuyuki Teshima
Emory Anderson

TOPICS: STATUS OF FISHERIES
MANAGEMENT ALTERNATIVES

1700 BUS DEPARTS FOR SEA LIFE PARK
1800 - SOCIAL: SEA LIFE PARK

Monday, 14 December, 1987

0900 - 1100 CONCLUDING WORKSHOP SESSION (If necessary)
1200 - 1330 LUNCH
1300 - FREE TIME UNTIL DEPARTURE



U.S. Marine Warship on Efate Anchorage as Living Resources
at EAST-MARSH CENTER, September 10-14, 1987

SCHEDULE OF EVENTS

Page 5

0920 - 0950 Shirai, S. and K. Nakaya
Systematics of the Squaloid Genus
Centroscyllium from the Indo-Pacific
0950 - 1010 Compagno, L.J.V.
Relationships of the Megamouth Shark
1010 - 1030 BREAK

WORKSHOP SESSIONS

1030 - 1200 GENERAL WORKSHOP: ELASMOBRANCHS AS LIVING
RESOURCES

Moderators: Toru Taniuchi
Gregor M. Cailliet

TOPICS: SYNOPSIS OF WORKSHOP PAPERS
RESEARCH NEEDS
FUTURE COLLABORATIVE STUDIES
PLANS FOR PUBLISHING PROCEEDINGS
CONCLUSIONS

1200 - 1330 LUNCH

1330 - 1600 WORKSHOP ON FISHERIES MANAGEMENT

Moderators: Kazuyuki Teshima
Emory Anderson

TOPICS: STATUS OF FISHERIES
MANAGEMENT ALTERNATIVES

1700 BUS DEPARTS FOR SEA LIFE PARK
1800 - SOCIAL: SEA LIFE PARK

Monday, 14 December, 1987

0900 - 1100 CONCLUDING WORKSHOP SESSION (If necessary)
1200 - 1330 LUNCH
1300 - FREE TIME UNTIL DEPARTURE

書評 Book Review

Shark. A photographer's story. 1987. Jeremy Stafford-Deitsch. The Sierr Club Books, San Francisco, 200p. ca ¥3500. ISBN 0-87156-776-8.

本書は水中写真家である著者の行った3年間にわたる世界のサメの生態写真撮影旅行の集大成である。構成は以下のようになっている。

- 第一章 緒言
- 第二章 サメの生物学 (ごく入門的な概説)
- 第三章 浅海にすむサメ類
- 第四章 紅海のサメ類
- 第五章 外洋性のサメ類
- 第六章 ホホジロザメ
- 付録 ダイバーむけのサメのガイド

第三章から第六章までが本書の中心となる部分で、紅海・南太平洋・カリフォルニア沿岸・カリブ海など世界各地での水中写真撮影の紀行文と著者の撮影した100枚以上のカラー写真により構成されている。内容としては専門的なものではないが、実際の体験にもとづいているため読物としておもしろく、アオザメやヨゴレ・シュモクザメ類、またサメではないがクロカジキやゴンドウクジラなどの美しい水中写真をながめているだけでも楽しい本である。なお、まえがきはマイアミ大学の Samuel H. Gruber 博士によるものである。

(立川浩之：小笠原海洋センター)

Sharks. An illustrated encyclopedic survey by international experts. 1987. Merehurst Press, London, 240p. ca ¥7500. ISBN 0 942075 68 6.

本書は分類・生態・水中写真など各分野の専門家15名の執筆によりまとめられたサメ類に関する総説である。構成はサメ、人への攻撃、神話と事実の3部からなる。第一部では進化・分類・分布・生物学・感覚・行動・生態が扱われており、分類はL.J.V. Compagno、分布はGuido Dingerkus、生物学はJ.D. Stevensというように豪華な執筆者が名を連ねている。ボリューム的には1セクション数ページからせいぜい20数ページ程度であり、ふんだんなカラー写真や図版にスペースをとられているため内容としては入門的なものにとどまっているが、これは本書の性格上いたしかたないところであろう。

第二部はサメの人に対する攻撃についての、オーストラリア・アメリカ合州国・南アフリカ・ニュージーランド・南太平洋からの報告である。各地域での攻撃の実例や危険な種類などが紹介されている。日本人の読者からみると、第一部が全体で90ページ程なのに対して第二部が60ページ以上もあるのは、サメに対する欧米人と日本人との視点の差を思い知らされるような感じがする。

第三部では攻撃以外の人とサメとの関係として、古代ポリネシアでの信仰の対象としてのサメ、サメの利用(食用その他)、水中撮影、サメ駆除物質などが紹介されている。

ツマジロの図版の学名がネムリブカのものになっていたり、フジクジラの写真にダルマザメの解説がついていたりする誤りはいくつか見られるが、カラー写真や図版も豊富であり、サメ一般に関する解説書として本書は手ごろなものであるといえよう。

(立川浩之：小笠原海洋センター)

(1988年5月15日受付)

A n n o u n c e m e n t

第3回インド・太平洋国際魚類会議の軟骨魚類シンポジウム開催について

この件に付き、ハンブルグ、西独水産研究所 (ISH) の Dr. M. Stehmann から下記のような案内状が届きましたのでここに紹介させていただきます。

諸学兄様

来る1989年11月から12月にニュージーランドのウェリントンで開催される予定の第3回インド・太平洋魚類国際会議に於て、軟骨魚類に関する特別シンポジウムを開くよう会議の実行委員会より依頼を受けました。そこで皆様に「軟骨魚類の分類、進化及び系統」と題するシンポジウムへの参加を呼びかけたく思います。講演発表、ポスター発表いずれでも構いませんので、参加御希望の方は題名を明記の上、遅くとも本年9月末日までに、ニュージーランド国立科学博物館の Dr. Graham S. Hardy に直接か、あるいは私のところまでお申し込み下さい。1985年に東京で開催された第2回の同会議に於ける軟骨魚類の国際シンポジウム以降、このようなシンポジウムは開催されたことがなく、またこの間に軟骨魚類に関する多くの研究がなされ印刷物が刊行されたことから、第3回の会議は軟骨魚類研究の最新の成果を要約する絶好の機会となる事と思われます。題目は先ずインド・太平洋の魚類相に焦点を合わせるべきものの、必ずしもこの海域に限定されるものではありません。しかし分類、系統、進化という3つの項目に必ず合致し、化石をも含みます。以下略。

皆様の積極的な対応とウェリントンでお目に掛かることを切に希望致します。

1988年4月 Dr. Matthias Stehmann

(Address)

Dr. Matthias Stehmann: ISH, Zool. Museum Univ. Hamburg, Martin-Luther-King-Platz 3, D-2000, Hamburg 13, F.R.G. Germany.

Dr. Graham S. Hardy: National Museum of NZ, Nat. Hist. Unit, P.O. Box 467, Wellington, New Zealand. (石原 元 要訳)

編 集 後 記

Editorial Note

原稿がなかなか集まらないことおよび私の怠慢から第25号の発行が大幅に遅れまして申し訳ありませんでした。本号より一部の有志と語らって、本誌の名称を日本語名については[板鰐類研究会報告]、英語名については[Report of Japanese Society for Elasmobranch Studies]と改称することしました。アメリカでは American Elasmobranch Society という組織があるので、多少対抗意識があったからです。内容的には、従来と変わりはありませんが、今後は、今回石原さんに作っていただいたような日本産板鰐類の検索を掲載していく予定です。日本産板鰐類の検索を作ってやろうという方が居られれば、大歓迎です。出来れば、レイアウトを含めてワープロ (A4版をB5版に縮小します) で作成した原稿をお送り下さるようお願いします。

会員の仲谷一宏氏から文部省在外研究員として Smithsonian 研究所に7月まで滞在する予定なので、標本調査などについて申し出てくれれば、便宜を図る旨の連絡をいただいています。本号の発行が遅れた関係で折角のご好意を無にする結果となりそうです。

同じ研究室という気安さからついつい石原さんに何かと無理をお願いしています。本誌を気長に継続するためにも、是非とも板鰐類に関する記事をお送り下さるようお願いいたします (谷内 記)。

